

珍獣ドクターの ドタバタ 診察日記

田向健一／著
ポプラ社



犬やねこ以外にも、さまざまな生きものがペットとして飼われるようになってきた現代。動物病院にもさまざまな動物がやってきます。はじめて見る動物でも絶対にあきらめずに治療しなければいけない獣医さんは、毎日勉強をかさねて頑張っています。言葉が通じない生き物を飼うこと、命と向き合うことの大切さを考えてみましょう。

五七五の夏

万乃華れん／作
黒須高嶺／絵
文研出版



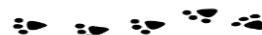
順平の家は八百屋で、川柳好きの父ちゃんと母ちゃんが仲良くはたらいしています。2人の川柳が夫婦川柳コンテストで優秀賞に選ばれたことをきっかけに、順平のクラスで特別授業をすることに。隣の席の人とペアになって川柳をつくらなければいけないのですが、順平はとなりの席の千夏のこと気がななつて、うまい川柳が思いつきません。



♪“うちどく”ノートにきろくし^{ちやお}ciao♪

学校の本も、図書館の本も、おうちにある本も、読んだら“うちどく”ノートにきろくしてみよう。本を読みおえた日にちや、本のタイトルを書いておくと、あとからもう一度読みたくなった時や、おうちの人や友だちにしょうかいしたい時に役に立つよ！

一年間でどのくらいきろくできるかチャレンジしてみよう。“うちどく”ノートは中央図書館で無料でもらえます。



村上市の図書館(図書室)案内

図書館

■中央図書館

村上市田端町4-25 TEL53-7511(代)

■朝日図書館

村上市岩沢5668 TEL72-6700(代)

図書室

■荒川図書室

村上市羽ヶ榎104-25 TEL62-3050(代)

■神林図書室

村上市岩船駅前63 TEL60-1500(代)

■山北図書室

村上市府屋177-1 TEL77-3798(代)

いい本みつけた 2019年度版

小学5・6年生むけ



村上市立中央図書館

香菜とななつのひみつ

福田隆浩／著
講談社



恥ずかしがりやで引っ込み思案な5年生の香菜は、人と話すことが苦手。でもある日友だちの梨花ちゃんから困っていることを相談されて…。ばつぐんの観察力と、気になることをとことん考える長所をもつ香菜が能力を活かして、いろいろな謎を解決していくほのぼのの学校ミステリー！

さよなら、ぼくらの千代商店

中山聖子／著
岩崎書店



小さいころここに来たことがある。気がついたら水色のバスにのって千代商店まで来ていました。なつかしい千代商店で優しくむかえてくれる千代ばあちゃんは、あのころと少しも変わりません。そこは、大きくなるにつれて忘れてしまったこと、大切な気持ちを思い出させてくれる場所でした。

あかりさん、どこへ行くの？

近藤尚子／作
江藤路子／絵
フレーベル館



ぼくのおばあちゃん「あかりさん」は最近どこか変。ぼくはお母さんからあかりさんが「認知症」という病気だと教えてもらいました。物忘れが激しかったり、毎日家を出てどこかに行こうとしたりするあかりさんに、わが家の日常はどんどん崩れていきます。自分にできることはなんだろう、ぼくは家族や友達と一緒に考え始めました。

ソロモンの白いキツネ

ジャッキー・モリス／作
千葉茂樹／訳
あすなる書房



母をなくし心をとざした12歳の少年ソロモンと、罪の意識にとらわれている父。ある日シアトルにあらわれた白いホッキョクキツネにみちびかれ、不器用な父と子はながくおとずれずにいた母の故郷アラスカへと向かいます。祖父母から母の話を聞きながら、変化していく父子の関係をえがいた旅の物語。

いいたいことがあります！

魚住直子／著
西村ツチカ／絵
偕成社



陽菜子は中学受験をひかえた小学6年生。勉強も家の手伝いもするよういわれているが、兄は家事をしなくていいらしい。自分だって塾で勉強を頑張っているのだから、たまには家事をせずに遊びたい！納得できない気持ちをかかえて過ごす陽菜子の前にある日、ふしぎな女の子が現れて…。

うっかりの玉

大久保雨咲／作
陣内草子／絵
講談社

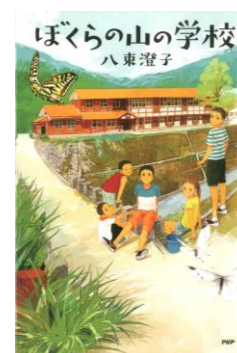


階段をおりて台所に来たものの、なにをしに来たのか忘れてしまったおばあさん。思い出すために階段に戻ると、青い着物を着た女の子がすわっていました。色の違う玉をもって何やら歌を歌っている女の子に近づいてみると歌の中に聞いたことのある名前がでてきて…。

年を重ねたからこそ見える世界をえがいた童話集。

ぼくらの山の学校

八束澄子／著
PHP研究所



学校でトラブルを起こしてからというもの、家でも居場所をなくしつつあった壮太は、たまたまテレビで見かけた「山村留学」の話に飛びつきます。そこは田舎の山の中にある小学校に、都会から親元を離れてくる子どもたちを、受け入れているところでした。出身地も年齢もバラバラな子どもたちが豊かな自然に囲まれて成長していく物語。

わたしはガリレオ

ボニー・クリステンセン／作
渋谷弘子／訳
さ・え・ら書房



「太陽のまわりを地球が回っている」今ではだれもが知っていることですが、500年ほど前は、そのようなことを考えたり、発表したりすることは犯罪でした。ガリレオ・ガリレイはそんな時代に生まれながらも、太陽中心説をとえ生涯を通してその説を説明し続けました。

“近代科学の父”と呼ばれたガリレオの生涯を語る伝記絵本。